

福岡市総合計画審議会
都市の成長部会
会議録

日時 令和6年7月22日(月) 15時00分

場所 TKPエルガーラホール7階 中ホール

出席者（五十音順、敬称略）

石堂 高大

貝和 慧美

久保 文一

辰巳 浩

中村 弘峰

松岡 恭子

石丸 修平

金谷 明倫（代理出席 山口）

黒瀬 武史

田中たかし

西村 悦子

水木 祐一

猪野 猛

木村てつあき

坂井 猛

徳永 美紗

古川 清文

森川 春菜

福岡市総合計画審議会 都市の成長部会

〔令和6年7月22日（月）〕

開 会

1 開会

○事務局（高橋） それでは、定刻となりましたので、ただいまより福岡市総合計画審議会都市の成長部会を開会いたします。私は事務局の福岡市総務企画局企画調整部長の高橋でございます。本日の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日もYouTubeによるLive配信を行っております。

まず、お手元の資料を確認させていただきます。

資料の右肩に記載しています資料番号を御覧いただき、資料1から6がおそろいか御確認ください。

今回、生活の質部会におきまして委員の交代がありましたので、参考資料1を更新しています。

また、参考資料の4、参考データ集の5ページから6ページにかけまして、区別の5歳階級別人口を追加しています。

全てお手元にございますか。不足がある方や本日、委員個別のファイルをお持ちでない方は事務局職員までお申し出ください。

本日の資料もお手元のファイルに綴じて事務局で保管することも可能でございます。また、後日郵送でお届けすることも可能ですので、詳しくは会議の最後に御案内いたします。

なお、委員の皆様の御出席状況は、お手元の配席表にて代えさせていただきます。

それでは、ここからは部会長に進行をお願いしたいと思います。坂井部会長、よろしくお願いいたします。

2 議題

○坂井部会長 進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の議題に入ります前に、素案の修正状況について事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局（染井） 総務企画局企画課長の染井でございます。よろしくお願いいたします。

それではまず、お手元の資料1を御覧ください。今後のスケジュールでございます。

7月のところ、赤い枠で囲んでおりますのが本日の部会でございます。本日は前回の部会の振り返りと指標設定の方向性を中心に御審議いただきたいと思いますと考えております。

その後のスケジュールは記載のとおりでございます。前回の部会で御説明した内容と変わっておりません。

資料1については以上でございます。

これから前回の両部会で頂いた御意見への対応について御説明いたします。

まず、資料2を御覧ください。こちらは総合計画と分野別計画の全体像をまとめたものでござ

います。

この資料のポイントは2点ございまして、1点目は計画全体における基本計画の位置づけでございます。

左側の青で着色した部分、基本構想、基本計画、実施計画というところを書いておりますけれども、一言でいいますと、基本構想は都市像、基本計画は方向性、実施計画は具体的な取組みを示すという構成になってございます。これまで審議会でいただいた御意見の中で具体的な取組みに関する御意見につきましては、基本計画にはなかなか反映することが難しい面もございまして、これから基本計画と並行して検討を進めてまいりますこの実施計画、さらには資料の下段にございます分野別計画中で、御意見の反映についてしっかり検討してまいります。

また、この資料の2点目のポイントとしましては、基本計画の中の構成についてでございます。

基本計画の右側の水色の部分ですけれども、総論と各論にそれぞれどのようなことを位置づけるかをお示ししております。例えば、総論には、計画全体に共通する考え方としまして、具体的には、例えば、新たなテクノロジーを活用していくことですか、広域的な視点を持つということ、持続可能なまちづくりをしていくこと、そういったことを総論にまとめておりますし、また、前回の部会でいただきました「空間構成目標」や「区のまちづくりの目標」に関する御意見につきましても、「分野別目標」に反映することが適当なものにつきましては反映しております。

今回改めてこのように計画の全体像を整理しまして、皆様からいただいた御意見をどの計画のどの部分に反映していくかということを、引き続きしっかり検討してまいりたいと考えております。

それでは、個別の内容につきまして主な修正点を御説明してまいりますので、資料3、素案修正案を御覧ください。

表紙に記載しておりますとおり、朱書きのアンダーラインの部分が前回の部会でいただいた御意見を反映した部分、黒字でアンダーラインを引いている部分は、前回までに既に反映していた部分をお示ししております。

まず、4ページを御覧ください。「地域別社会移動の状況」でございまして。

こちらの図は、前回、九州各県と福岡市が支え合う関係性を表す一つの図として追加したものですけれども、生活の質部会におきまして九州外ですとか、国外との人口移動も盛り込んだほうが良いのではないかという御意見をいただきましたので、その点修正を加えております。

少し飛びまして、13ページを御覧ください。

こちらは施策1－2でございまして。前回の生活の質部会において、今「個性」となっている部分が「能力」という表現になっておりまして、「能力に応じて」という表現は見直したほうが良いのではないかといった御意見を複数いただきまして、福祉部局とも調整いたしまして、「個性に応じて」という表現に改めました。

次の14ページ、15ページをお願いいたします。

こちらの目標2につきましては、前回の生活の質部会でかなり活発に御審議をいただいたところでございます。論点としましては、15ページの施策の並び順についてです。

主な御意見としましては、子どもを望む人を対象とした施策２－１よりも子ども自身を対象とした施策２－２を先に持ってきたほうが良いのではないかという御意見ですとか、あとは親が子育てを楽しむことが子どもたちの将来につながっていくというサイクルの視点を取り入れてはどうかといった御意見、また、２－１から２－４のどこを基点にしたとしても違和感は生じるものではないかといった御意見などをいただいたところでございます。

今回の修正案では並び順は変えておりませんが、政策の見出しなどを朱書きのとおり修正しております、その趣旨を御説明します。

まず、施策２－１につきましては、前回、「子どもを望む人」、つまり、親のための施策だから最初に来るのはどうかという御意見をいただいたところですが、２－１の本文を御覧いただきますと、１行目に書いておりますように、「社会全体で子どもと子育て家庭を見守る」としております。まさにこちらは生活の質部会の中で最優先すべきという御意見をいただいた「社会全体で子どもを育てていく」という理念ではないかということでございまして、全ての子どもが対象となるような事業全般がこの２－１に入ってくると考えております。

しかしながら、前回までは、見出しに「社会全体で子どもを見守り」というフレーズがなく、「子どもを望む人が」ということで、施策を的確にとらえた表現になっておりませんでしたので、今回見出しの修正をいたしました。

一方、施策２－２につきましては、前回の部会の時点では見出しが「すべての子どもや若者が安心して暮らし、成長できる社会づくり」となっておりました。しかし、この２－２の本文を御覧いただきますと、「様々な困難を抱える子どもや若者への相談体制や支援」などとありますように、この内容は、虐待、貧困、いじめ、不登校など、特にネガティブな環境にある子どもにフォーカスして、そうした子どもたちがほかの子どもたちと同じように、安心して暮らし、健やかに成長できるようサポートするというのがこの施策２－２でございまして。こちらも見出しと本文の内容がマッチしていないところがございましたので、今回修正を加えております。

この修正により整理しますと、施策２－１は、すべての子どもと子育て家庭を対象とした施策、施策２－２は、その中でも困難な状況にある子どもをサポートするもの、施策２－３は、主に義務教育を中心に教育環境の充実を図るもの、そして、施策２－４は、体験機会の創出や高等教育などにより将来の人材育成を担っていくという構成としております。

これらの修正に併せまして、14ページの「めざす姿」の部分も表現を少し修正しております。

16ページを御覧ください。

こちらは、前回、都市の成長部会でも、また、生活の質部会でも御意見をいただきました住宅の老朽化等に応じた適切な管理、更新が必要ではないかという課題を、こちら(3)の③のところに追加しております。

また、17ページの施策３－４には、生活の質部会で御意見をいただきました「医療環境の充実」というフレーズを加えております。

少し飛びまして26ページ、目標８を御覧ください。

こちらは(3)現状と課題の①ですけれども、前回、都市の成長部会で港湾に関する記述が不足し

ているという御意見をいただきましたので、それを受けまして、こちらにこれまでの取組み、それから、今後の課題などを加えております。

28ページを御覧ください。ここからは「空間構成目標」でございます。

まず、「空間構成目標」の位置づけが分かりづらいという趣旨の御意見をいただきましたので、冒頭に趣旨を追記するなど、修正を加えております。

また、(1)現状と課題の五つ目の丸ですけれども、ここはほぼ全文朱書きになっておりますが、前回、文脈が少し分かりづらいといった御指摘をいただきましたので、文言の整理をしたものでございまして、趣旨としては前回と大きく変わっておりません。

それから、29ページを御覧ください。「日常生活圏」でございます。

ここは前回、都市の成長部会で「小学校区単位を基本として」という表現はいかがなものかという御意見をいただきまして、その文言を今回削除しております。

また、生活の質部会では、この内容は都心部やその他の拠点等にも当てはまるものではないかとの御意見がございました。ここは、都心部、地域の拠点といった並びで出てきますので、そこを除いたような受取りになってしまったかと思いますが、趣旨としてはそういったものではなく、公民館を拠点として自治協議会を中心に地域コミュニティが形成されている、これを日常生活圏と定義しておりまして、こういった条件に当てはまる市内の全ての地域に共通する考え方を示しているところですので、そのように趣旨が読み取れるよう修正を加えております。

このほかの「空間構成目標」ですとか「区のまちづくりの目標」における修正は、おおむね前回の両部会で御意見いただいたとおりの修正を加えているものですので、朱書きの部分を御覧いただければと思います。

また、冒頭、資料の確認で少し触れましたけれども、区ごとの年齢階層別の人口につきまして、お手元のドッチファイルの参考資料4に追加しておりますので申し添えます。

なお、交通の分野でもこれまで具体的な取組みに関する御意見を様々いただいておりますけれども、この点につきましては、資料2で御説明したとおり、実施計画や分野別計画の中で引き続き検討してまいりたいと考えております。

最後になりますけれども、資料4を御覧ください。令和5年度福岡市基本計画に係る実施状況の報告（案）でございます。

こちらは、現行の第9次基本計画に基づく各施策分野の取組みにつきまして、毎年、前年度の実施状況をこの時期に総合計画審議会にお示しして、その後、9月の市議会で毎年報告、公表しているものでございます。

資料4は報告の概要版、それと地方創生に関する取組みの実施状況を簡潔にまとめたものでして、資料4の詳細版は資料5になりますので、そちらを御参照いただければと思います。

今後、資料5を印刷製本していくスケジュールの都合もございまして、資料4と5につきましては、御意見ございましたら本日この場でももちろん結構ですけれども、後日、メールや電話等でも、どのような手段でも構いませんので、御意見を今月末までにいただければ、対応をしてみたいと考えております。

私からの説明は以上です。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

○坂井部会長 ありがとうございます。資料の1から5まで説明いただきました。今後のスケジュール、それから素案の修正状況、そして、昨年度の実施状況の報告ということでございます。

本日の審議も、前回までと同様に、この場で内容を固めるというものではございません。委員の皆様には率直な御意見を賜ればと思います。

これから30分程度時間を取りたいと思いますので、1から5についてこれまでの説明の中で御質問、御意見がおありの方は挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。大体よろしいですか。はい、どうぞ委員。

○委員 ほぼ出来上がりに近づいてきている感じがあるんですけど、この参考資料の5、今回の総合計画をやっているという段階で最初の段階で、みんなで作る福岡市の将来計画プロジェクトという冊子が出まして、例えば、小学生とかにいろんな住んでいるまちのアンケートとかを取られて、みんなで作ってこういうイメージがありました。ほぼ今出来上がりつつある段階で、例えば、小学生に意見を募集した内容について、この新しい冊子にはどういうところに子どもたちの意見が入っていますよとか、そういったことを御説明できる状況まで来ているのか、子どもたちの意見っていうのが反映されているのかという詳しいところを教えていただければと思います。

○事務局（染井） ありがとうございます。

それでは、参考資料5の中で、31ページを御覧いただければと思います。

ここからが特に小・中学校での意見の募集をした結果をまとめているところになります。

32ページに、「福岡市がまちづくりを進めていくうえで、あなたが大切にしたいほうがよいと思うものはどれですか」という問いに対しまして、御覧いただければ分かりますとおり、1番目の「自然を大切にする取組み」というところが突出して多いという結果がございました。

また、その隣の質問3のところはジャンルごとに整理しておりますけれども、これも1番目の「緑、自然、生きもの」に関する意見が最も多く、子どもたちの自然に対する関心の高さが現れていると受け止めております。これは子どもたちに報告をしてもらうような場も別途つくったんですけれども、その場でもかなり自然を大切にしたい、特に身近に自然が感じられるまちづくりを進めてほしいという御意見をもらっておりまして、そういうことは今回本文の中でも、施策の4-2に身近な緑、花で安らぎがあるとか、あるいは6-1で、都心のまちづくりの中にも緑を使った魅力の向上を盛り込んでおります。

子どもたちの意見を受けて、こういうところに特徴が出て、つくっていますよということを、これからこの計画と並行して市民の皆さんにもお返ししていく分かりやすい資料も必要かと思っております。そういう中でお示ししていけるように、ちゃんと市民の皆様の計画として、子どもたちを含めて共有できるようなものを考えていきたいと考えております。

○坂井部会長 よろしいでしょうか。

それでは、見せ方の工夫をぜひよろしくお願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。特にございませんか。よろしいですか。オンラインで御参加の委員の方いかがでしょうか。今までのところ、大体よろしいということでもいいですか。

○委員 すみません。

○坂井部会長 どうぞ。

○委員 ありがとうございます。

今回も非常によくおまとめいただいた資料ということで、総会前の最後の部会ということで、通して事前に拝読をさせていただきました。

この中で資料の3について2点御提案といえますか、御質問も含めて2点ございます。

1点目が5ページ目なんですけれども、資料の3の本文の5ページ、ブルーで5ページと打っているところで①に「九州における役割」とございます。

「福岡市は、九州のゲートウェイとして、文化、教育、経済、情報など様々な高次機能を備え」というところがありまして、私どももいろんなことを検討しているんですけれども、やっぱり高次機能と、九州ならではの機能としては、グローバルハブ機能というのが福岡ならではのキーワードではないかと思っております、可能であれば、「様々な高次機能を備え」というところに「様々な高次機能とグローバルハブ機能を備え」といった文言の追加をお願いできればありがたいというのが1点です。

それともう一つなんですけれども、この資料4、資料3をまたぐ話でありまして、資料4で一丁目一番地にユニバーサルデザインの話がございました。資料3の中にユニバーサルデザインのお話がどこかに入るかなというふうに読んだんですけれども、私が見落としたのか、特段見つけきれませんで、ユニバーサルデザインというのが今後10年間の基本計画の中でますます重要性を帯びてくるのではないかとということもあり、まだまだ障がい者の方、あるいは御高齢の方、今後車椅子がどんどん増えていく中で、障がい者対応の車椅子のまま入られるトイレの充実とか、あるいは道路の段差の問題とかの解消とか、ユニバーサルデザインは、今後10年、福岡市も高齢化していく中で非常に重要なテーマかと思しますので、この辺りの御指摘についてしっかり確認できていない部分もあるんですけれども、もう少し書き込んでいただくとよいのかなというところがございました。

以上2点でございます。

○坂井部会長 ありがとうございます。今までのところいかがでしょうか。

○事務局（染井） ありがとうございます。

1 点目のグローバルハブ機能に関しましては、恐れ入ります、対応を検討させていただきますけれども、趣旨としましては経済的にというか、こういった文脈でのイメージかをもう少しお聞かせいただけたらと思いました。いかがでしょうか。

○委員 ありがとうございます。

グローバルハブ機能、もちろん経済的な意味で、福岡が一番九州の中で尖らないといけない、元氣じゃないといけないという意味も込めまして、アジアに向けたショーケースであり、貿易拠点であり、様々な外国人が福岡を拠点に集まってくるというイメージでのグローバルハブ機能、ヒト、モノ、カネ、情報、全て含んだところで考えております。

○事務局（染井） ありがとうございます。どのような反映ができるか検討させていただきたいと思います。

それから、もう一点のユニバーサルデザインにつきましては、資料3の13ページを御覧いただければと思います。

こちらの施策1－1というところに、「多様な市民が輝くユニバーサル都市・福岡の推進」と書かせていただいております、このユニバーサルデザインの理念に基づくまちづくりを福岡市では、プロジェクトとしてユニバーサル都市・福岡という言い方で取り組んでございまして、この中にまさにユニバーサルデザインの理念が入ってはいるんですけれども、そこが読み取れないというところもあるのかなとは思いましたので、対応を検討させていただきたいと思います。

以上でございます。

○坂井部会長 委員、よろしいでしょうか。

○委員 ありがとうございました。

○坂井部会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。まず、委員、お願いします。

○委員 今のユニバーサルのお話が出たんですけれども、これはできるかどうか分かりませんが、13ページの「ユニバーサル都市・福岡の推進」というところに、例のお猿さんのマークが何か入れといたら分かりやすくなるのかなという気がいたしましたので、1点です。

もう一つはところどころ散見されるんですが、例えば、4ページのところの「都市圏全体として」というところの、「全国的に」から最後のところまでがずっと文章が続いて読みづらいのかなと。一つのセンテンスは点が二つか三つぐらいのところ一旦切られてつながったほうがいいのかなという気がいたしました。

以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。事務局のほうで吸収していただくようお願いいたします。

委員、先ほど手が挙がっていましたからお願いします。

○委員 ありがとうございます。

先ほどの御指摘とも近いんですけれども、目標2の「すべての子ども、若者が」というところで、15ページになりますけれども、施策の2-1に「子どもを望む人が安心して生み育てられる環境づくり」というところがあって、非常に重要だと思っております。

これに関連するんですけれども、今回追加していただいた福岡都市圏との人口の移動を見ると、実は福岡市から域外に出ている方が多いということで、福岡市の中でいかに子育て世代が住み続けられる環境をつくるのかというのは、実は重要なテーマなのではないかなと思っております。この施策の中に、暮らし、その先には住まいであったり、それから、移動のしやすさというのが出てきてなくて、どちらかというと、移動のしやすさは目標1に入っていますし、暮らしの部分というのは、どちらかというと、その次の目標3に入ってきているのかと思いますが、いろんなところにまたがって申し訳ないんですが、子育てをしやすい、子どもを望む方、もしくは子どものいる家庭が暮らしやすいといったときに、端的に言えば、教育系の策だけじゃなくて、都市の施策に関してもそちらにアラインしていただくように、何か加えていただくのがいいのかなというふうに思いました。これが1点目です。

2点目は、先ほどから御指摘があったユニバーサルデザインの話とも近いんですけれども、例えば、目標6の22ページ、23ページ辺りに、都心部の話はかなり書いていただいているんですけれども、どちらに書くべきか分かりませんが、例えば、今天神ビッグバンや博多コネクティッドで非常に都心部は移動しやすくなってきて、これは評価すべき点だと思うんです。そういうときに例えば、車椅子の方が移動しやすくなっているんだろうとか、都市機能の充実だったり、成長と同時に、そういう視点、そういう部分でも質が高くなっていくということをやはり意識すべきなんだろうというふうに思っていて、少し目標にまたがるような話で恐縮なんですけれども、そういうところが、こちらで書いたから、こちらで書かなくていいということでもないのかなと思いますので、例えば、都心部、特にそういう移動のしやすさについて意識をするであったりとか、先ほど申し上げたように、子育ての観点のときに、暮らしであったり、住まいというものについても考えていただくとか、そういうところにも目を配っていただけるとありがたいなと思っております。

以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

事務局は今までのところよろしいですね。ありがとうございます。今出ました御意見をしっかり吸収していただければと思います。

それでは、素案の修正状況につきましては一旦この辺りでとどめまして、ここから本日の議題です。指標設定の方向性について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（染井）　ありがとうございます。

それでは、指標設定の方向性について御説明いたします。

お手元の資料6を御覧ください。こちらは基本計画と政策推進プランにおける指標設定の方向性をまとめたものでございます。

来年度以降、計画を着実に推進していくためには進捗を図る指標が重要なものになると考えておりまして、現行の第9次基本計画における課題も踏まえ、考え方を整理しております。

まず、上段の指標設定のロジックモデルを御覧ください。

こちらは右肩に書いておりますけれども、公益財団法人福岡アジア都市研究所から3月に発行されました「ウェルビーイング～新たな都市の評価に関する研究～」をベースに作成しております。左から事業の活動量であるアクティビティが増えることによって、活動による産出物であるアウトプットが増加し、その効果が施策事業の成果であるアウトカムに反映され、右端の政策の最終的な効果であるインパクトとして現れてくるという流れをお示ししております。

例1、例2ということで具体例を二つ挙げておりますけれども、例1のユニバーサルデザインの啓発につきましては、まず、イベントの開催回数を増やすと参加者数が増え、その結果、アウトカムである市民の理解度が高まって、最終的には自分らしく生きられるまちづくりが進んでいるということを市民が実感できるという流れでございます。

資料の下段には、第9次基本計画の課題等を踏まえた考え方を3点まとめております。

1点目は「分野別目標や施策全体の評価」です。

こちらは資料には書いておりませんが、具体例を申し上げますと、例えば、現行の第9次基本計画では、子ども施策全体をはかる指標としまして、保育所の待機児童数というものを設定しております。しかしながら、待機児童数は幅広い子ども施策の中のごく一部、一側面にすぎませんので、子ども施策全体をはかる指標としてはサイズが合っていないというような課題がございました。

このため、分野別目標、施策、事業、それぞれに応じて効果的な指標を設定するということが重要と考えております。

それから、課題の2点目は、「外的要因の影響や社会経済情勢の変化への対応」でございます。

こちら資料には記載ございませんけれども、具体例を申し上げますと、現行の計画では、福岡市と韓国釜山市の連携の強化という施策がございまして、これをはかる指標として両都市間の船舶での乗降人員を設定しております。しかしながら、この10年間でLCCの台頭などもあり、船舶の乗降人員では都市間連携の進捗を図ることが難しい状況に変化しております。

こういったことも踏まえまして、施策や事業の指標につきましては、4年ごとの実施計画である政策推進プランに位置づけることにより、4年ごとに事業及び指標の見直しや、最適化を図り、計画期間中の社会経済情勢の変化や不測の事態にも的確に対応しながら、基本計画の市民意識と

併せて総合的に評価、分析を行ってまいりたいと考えております。

課題の3点目は、「適切な目標値の設定」でございます。

進行管理におきましては、単に目標値を達成したか否かということだけではなく、改善傾向なのか、悪化傾向なのかなど、傾向を分析することも重要と考えておりますが、どうしても目標値の達成状況に注目が集まると考えておりまして、そういう意味で目標値の妥当性を十分検討するとともに、できる限り傾向が見えるよう、毎年計測可能な指標というものを優先して設定していきたいと考えております。

2ページを御覧ください。こちらは指標体系全体のイメージをまとめたものでございます。

左側の青い枠が実施計画（政策推進プラン）、また、右側の青い枠が基本計画を表しておりまして、黄色で着色している部分が指標を表しております。

前回までの御審議では右端の基本計画、市民意識の部分だけをお示ししておりましたので、客観指標も必要ではないかといった御意見もいただいておりますけれども、真ん中、あるいは左の列にお示ししておりますように、施策や事業ごとに客観的なデータなどのアウトプット指標やアウトカム指標を設定いたしまして、この黄色で着色している部分、つまり全ての指標を総合的かつ多面的に分析することで、何がうまくいっていて、どこに課題があるのか、そういったところをしっかりと分析、評価していきたいと考えております。

3ページを御覧ください。こちらはこれまでの部会でも、また、先ほど委員からも御意見いただきましたけれども、いわゆる分野別目標間で相乗効果が生まれたりとか、またがって影響が出てくるような事例の一つとしてお示ししております。

例として、左端に掲げておりますけれども、「都心の森1万本プロジェクト」は街路樹などの植樹を推進するといった事業でございますけれども、これは施策4-2に掲げる「花や緑で潤いや安らぎを感じるまちづくり」というところから、一番右に行って、市民の生活の質の向上につながっていくということはもちろんですけれども、下の施策6-1に掲げております「都心部の魅力向上」にもつながることと考えておりまして、そういった意味ではこのプロジェクトは都市の成長にもつながっていくといったことをお示ししているものでございます。

こういった施策間をまたがって効果が出てくるような事業については、政策推進プランの中でも事業を再掲する形で、どちらにも資するものだということが分かるように工夫してお示ししていきたいと考えております。

4ページをお願いいたします。こちらは市民意識の項目数でございます。

計画の素案では、八つの分野別の目標に、それぞれ三つずつ、計24の「めざす姿」を掲げております。また、相互に関連が深い項目や市民が実感しづらい項目などを考慮して、16の「市民意識」ということで設定をしておりますけれども、こちらは5月の生活の質部会において、「めざす姿」と「市民意識」の数を合わせたほうがいいのかという御意見もいただきましたので、今回、方向性を検討し、皆様にぜひ御意見をいただきたいということでございます。

表の左から、一番左が八つの目標を表していきまして、左から2列目、24項目案というところには「めざす姿」と1対1で対応した「市民意識」の案を並べております。

この中で特に星印をつけている部分、ここは市民の皆さんにアンケートを行う際に、特に回答しづらいのではないかと想定している項目でございます。

例えば、上から5番目に、「子どもや若者の権利が尊重され、心身ともに健やかに育つまち」とありまして、これは先ほど少し御説明しました、困難な状況にある子どもや若者も健やかに育つことができるといった趣旨でございます。そのすぐ下の6番には、「子どもや若者が様々なことを学び、次代を担う人材として成長できるまち」とありますけれども、こちらについては、学校教育などを通じて人材として成長できるという趣旨でございます。この二つはいずれも子どもや若者の成長というくくりに入るような内容でございますので、実際に市民の方にここでアンケートをお答えいただくことを考えると、少し似たような項目が並んでいて違いがよく分からないということになることも懸念しておりまして、そういった観点で右端の16項目案の4番目にありますけれども、「子どもや若者が心身ともに健やかで、学び、成長できるまち」とまとめてはどうかというものでございます。

こういった形で関連が深いため集約と書いているものは、関連性があるものを一つにまとめたほうがお答えいただきやすいかという趣旨でございます。

また、左側の19番のところですが、これも、「地場中小企業や農林水産業などにより、地域経済が活性化しているまち」という項目がありますが、こちらは地域経済の活性化ということでなかなか市民の皆様には実感しづらいかと考えまして、より実感しやすい内容として、農水産物に絞って問いを立ててはどうかという案をつくっているところでございます。

それぞれこのような考えの下、24項目を16項目に集約した案をお示ししております。16項目案の書きぶりは、素案の内容から表現を少し改めている部分もございますけれども、それぞれ内容につきましてどちらがいいのか、また、個々の表現についても回答いただく市民の皆さんにとって分かりにくいところがないとか、そういった様々な観点から率直な御意見をいただければと思っております。

なお、実際にアンケートをする際には、それぞれの項目について4段階でお答えいただくようなフォームを想定しておりまして、一つは「そう思う」、それから、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」という4段階、それと、どうしても分からないということも出てくると思いますので、五つ目の選択肢としまして「分からない」というチェックボックスも設けたいと考えております。

5ページをお願いいたします。

集計・評価方法につきまして、こちらも第9次基本計画における課題を踏まえ、方向性を検討するものでございます。

具体例としまして、(1)に第9次基本計画で教育施策の指標となっているアンケートを挙げております。

「小・中・特別支援学校の教育活動について満足していますか？」という市民アンケートでございまして、表に記載のと通りの結果が出てございます。

この中で指標としているのは、満足している人の割合となっております、そこを取り出して

グラフ化しますと、右側に記載しております満足の推移というグラフになっております。

このグラフから評価しますと、黄色で着色した部分に書いておりますけれども、初期値を下回っていて、改善傾向も見られない。また、数字的には26%程度ということで、おおむね4人に1人が満足しているということは、裏返すと、4人に3人が不満ということかなと、このグラフだけを見ると映るんですけれども、実際には表に記載しておりますとおり、否定的回答は減少傾向にありまして、また、「分からない、無回答」の割合が6割を超えているという実態がこのグラフだと見えないという課題がございました。

こういった点を踏まえまして、第10次基本計画におきましては、下段の二つのグラフを活用したいと考えております。

一つは左側のグラフですけれども、肯定的回答だけではなく、否定的回答を併記することによりまして、両面から分析をするということでございます。

またもう一つは、右側の②というグラフですけれども、分母から「分からない、無回答」という方を除いて、その中での満足度を再集計しています。

今回の(1)で挙げた事例でいいますと、分からない、または無回答の6割強の方のうち、約93%は小・中学生のお子さんがいらっしゃる世帯ということでございまして、この部分を除いて再集計すると、資料には当事者と推定される層と書かせていただいておりますけれども、当事者であったり、あるいはその分野に関わりを一定お持ちの方、そうした対象の方における傾向を②のグラフのほうで合わせて分析していくことで、より多面的な評価をしていきたいと考えているところでございます。

説明は以上でございます。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○坂井部会長 ありがとうございます。ただいま御説明いただきました中で、資料6の4ページのところが議論していただきたいところでございます。市民意識の24項目を一部集約して16項目としてよいかという点でございます。もちろんそれ以外の部分でも結構でございます。御意見のある方は挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。委員。

○委員 資料6の1ページ、2ページでお示しいただいた指標の設定の仕方についてですが、大きくは賛成でして、これから基本的には福岡も人口も減っていく可能性もありますし、数ではなく、質を捉える必要があると思っております。

そういった中で、どうしてもこれまでの指標の設定方法ですと、例えば、都心部の歩行者数、もちろん多ければ多いほどいいんですけれども、インバウンドだったり、コロナだったり、いろんなところでかなり大きく変化をしていて、なかなかそれ自体が政策がうまくいっているかどうかというのははかることができなかったと思うんですけれども、今回の多面的な指標の設定、それから、どちらかというとアウトカムだったり、インパクトの目的のほうで指標を合わせて設定いただくことで、量としてはこういう傾向なんだけれども、その中の質の部分がどのように捉えられていったのかというのがかなりきちんと説明できるようになるのではないかなと思っており

ますので、その点については非常に評価できるところかなと思っております。

4 ページ目の24項目を16項目に減らしたらどうかというところで、こちらもそれぞれの分野に詳しい委員の方々から御意見いただくべきかと思うんですけれども、答えるほうの身になってみれば、24項目は非常に多いなと思いますし、もしかしたら16も少し多いかもしれません。

そういった中ではなるべく市民の方に答えていただきやすい、もしくは生活の実感値と近いところでやっていただくというのは重要かなと思っております。

1 点だけ、19番で地場中小企業、それから農林水産業の話が、野菜、魚の話になっているんですけれども、野菜、魚の話はいいと思うんですが、実は14番目の項目にも関係あるんじゃないかなと思っております。例えば、地場中小企業の方が活躍できる環境というのは、14番目の指標とも非常に関係が深いところでございます。

ですので、こちらの集約の考え方自体は市民の方に説明する機会はないかもしれませんが、ぜひ関連あるところはこの指標でも捉えようとしているんだということを多くの方に説明いただいて、よい形で集約されているのか、それとも、文言として出すべきところがあるのかというのは議論を深めていただければと思っています。

以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○委員 御説明ありがとうございました。

4 ページ目、項目19の「地域経済が活性化している」が、項目13項目の「野菜や魚など、新鮮で」という表現への集約は少々違和感があるというのがまず第1点でございます。

もう一点、項目18～20の「地域経済活性化」に関しては、企業目線でも、また市民目線でも、雇用という視点は非常に大事だと考えます。したがって、働きやすい、様々な働く場がある、あるいは様々な働き方の提供があるというような視点が、評価項目16のうちの一つに上がるというのかなと思いました。

といいますのも、項目16で「世界各国の人から働きやすく、住みやすい場所として選ばれ、国際社会で存在感がある」とあります。世界の人から見て働きやすい、住みやすいという観点ももちろん大事です。しかし、そのベースとなる今現在、福岡市に住んでいらっしゃる方、市周辺に住んでいらっしゃる方が、働きやすい、働く機会がたくさんある、そして住みやすいと感じていただくことが大事だと考えますので、そういう評価項目があるといいなと感じた次第です。

以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。これについてはよろしいですか。持ち帰りまして検討していただきます。よろしくお願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。大体よろしいですか。はい、どうぞ。

○委員 市民の意識を調査することは、先ほど言われた「そう思う」とか云々だけで、それ以外具体的に書くものは何かというのは特段ないんですかね。

何が言いたいかというと、どうしても自分が感じているイメージだけで答えてしまうと思うので、できれば、「具体的にどういうところでそれを感じましたか」ということを書く欄があれば、評価するときにこういうところで市民はそう思っているんだという何か具体的なものがないと、多分自分が生活している、自分の感じるエリアだけで福岡市がそうなのか、そうじゃないのかというのを判断しちゃうだけだともったいないかなという気がしたので、どうせ調査するなら、そういう具体的なものを書いてもらえるようなところがあるともっといい評価ができるんかなと思ったので、意見しておきたいと思います。

○坂井部会長 ありがとうございます。これについても御検討いただきます。ありがとうございます。

オンラインで御参加の委員から手が挙がっています。委員お願いします。

○委員 ありがとうございます。何点かコメントさせていただければと思います。

質問数というか、項目が16になるというのは、短いほうが多分答えられる方がいいと思うので、私もそれはすごくいいことだなと思います。

項目の中身……

○坂井部会長 委員、今音声が止まっております。

○委員 聞こえますか。

○坂井部会長 はい、聞こえました。はい、どうぞ。

○委員 すみません。先ほど御意見されていたかと思うんですけれども、「世界各国の人から働きやすく、住みやすい場所として選ばれ、国際社会で存在感があるまち」といったような項目の部分に関して、確かに外の方々がどう思っているかというのは大事なんですけど、本当にこの全部の計画とか、このアンケートに関しても、やはりそこに住んでいる市民の方々の充実度というか、ハッピーかどうかというところがすごく重要だと思いますので、住んでいる方々がどう感じるのかという項目はぜひ入れていただきたいなと思います。それは持続可能性、サステナビリティなまちづくりというものを目指す観点からも、そこに住んでいる人たちがどう感じているのかというのはすごく重要なので、そこはぜひ入れていただきたいなと思います。

特に観光客の方々が多く来られる場所でも、そこに住んでいる方々が本当に観光客の方々が来たときにうれしいと感じてくださっているとは思いますが、実際生活をしている圏内、自分が生活している圏内にたくさんの方々が来る、やっぱり文化とかも違うので、マナーの部分とかで

やっぱり嫌だなと思う方々もいらっしゃるんじゃないかなと思うんですね。私、出身が大阪で…
…

○坂井部会長 委員、音声がまた途中で止まりました。大阪のお話からお願いします。

○委員 インターネットの調子が悪いみたいで、ごめんなさい。

実際自分が住んでいる大阪、今大阪にいますけれども、観光客の方々が来ることによって、自分が好きな場所に行けなくなっているというような状況が出てきているんですね。なので、そういったことを感じられている市民の方々は福岡でもいらっしゃると思うので、ぜひそういった声は拾えるように、こういったアンケートをぜひ作っていただきたいなと思いました。

以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。

続きまして、委員、お願いします。

○委員 これは再度確認なんですけど、このアンケートは誰を対象に取るのか、教えてください。

○事務局（染井） 今のところ想定としましては、18歳以上の市民の方から無作為に抽出して、今までのやり方でいきますと、4,500人の方を住民票から無作為抽出して調査することを想定しております。

○委員 例えば、住人だけ。

○事務局（染井） そうですね、住民基本台帳から抽出いたしますので、対象は市民の方ということになります。

○委員 広くこの福岡市をしっかりと評価するのであれば、もちろん住人はそうなんですけど、例えば、観光客とか通勤だけ福岡に来てる人とか、多様な意見を拾う必要があるのではないかと。住人だけでこの項目を見たとき、16にするという話はいいとは思いますが、先ほどお話ありました、実感しづらいというか、大体こういうアンケートを取ると、みんな大体そうだよねと思うんです。だから、政令指定都市でこういう評価を見たら、大体高評価になる。そもそも都市機能が充実しているから政令指定都市なわけであって。といったときに、本当にそれで市の評価というか、市民の評価を適正に抽出できているのかなというところと常々疑問に思っていて、だから、市外の人からの意見ももちろん聞くべきですし、アンケートが取れるなら取るべきですし、先ほどイメージしやすいようにとお話が合ったとおり、例えば、これだけを聞くんじゃなくて、審議会でも議会でも何でもいいんですけども、こういう意見があったけれども、こう思うかという聞

き方をしないと、ただ単にどれを取ったって、「安全で安心して暮らせるまちだと思いますか」と聞いたら、多分、福岡市民はほとんどは「そうですね」と言うと思うんですよね。だけど、実はこういう問題があってというのは、さんざんいろんな会議でいろいろ出されているわけですから、こういう意見もあるけれどもとか、そういうところをしっかりと示さないと、これで評価が高いから90%以上の人が住みやすいと言っています、だから、オーケーですという話は違うと思いますので、そこら辺の意見をしっかりと、本当の市民意識というのを取って反映させるのであれば、そこら辺を工夫しないとというのは釘を刺しておきたいなというのが正直なところですので、ぜひ御検討をお願いしたいと思います。

○坂井部会長 ありがとうございます。先ほど別の委員からはコメントという御意見もございました。併せて御検討をお願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。では、こちらの委員からお願いします。

○委員 これは本題というか、ちょっと外れているかもしれないんですが、個人的な感想で、文字が羅列している状況で、ここに参加してずっと読んでいるけれども、イメージしにくいというのはどうしてもあって、似たような文言とか、内容が重複しているけど、微妙に内容が違って、それを冒頭に子どもとか出ているから子どものことで、教育のことで暮らしのことが分かれていてというふうに脳内で整理するんですけど、どうしても時間がかかるし、イメージが完全にできていないかが分からないまま項目が八つあるので、頭がこんがらがるといのが印象です。

一般の方もアンケートを答えるときも多分かなり疲弊してくるかなとは思っていて、そういうときに、行政のこういうアンケートはどうしても固いものにならざるを得ないというのは重々分かるので、何かそういう工夫、ビジュアル的に何かちょっとしたイラストとか、キーワードをここから抽出、本来この目標のところに多分都市の安全とか、子どもとか、文化・芸術とか、本来キーワードがちりばめられていて、このSDGsのマークとか上に付されているのが多分そういうカテゴリーの助けにはなっているのかなと思うんですけど、こういうところとか、大きな項目の色分けとか、何か2024年のアンケートだとすごく分かりやすいみたいな、そういうユーザーのインターフェース的なところがすごく理解とデザインが一致しているようなものになると、アンケートの回答の正確性みたいなのが上がってくるんじゃないかなと思いました。

○坂井部会長 ありがとうございます。

では、委員。

○委員 この資料6の2ページ、3ページというのは非常に面白いページだなと思ひまして、計画から細かいところに、右に落ちていくんですけども、小さいもの、アクションプランから計画のほうに遡って、あるアクションプランが幾つかの計画にまたいでいる、そういったことの検証もしていくというのは非常に優れた考え方だなと思って、感心いたしましたということをつ。

それから、先ほどからありますこの4ページ目の市民意識の話ですけれども、一番右側にある16項目が、16がいいのか幾つがいいのかは別にして、これは左側を一回伏せてみて、右側で何を聞きたいかということをもう一回、素から考え直してもいいのかなと。市民に聞くべきことと外の人に聞くべき、例えば、国際化とかは、多分住んでいる人はよく分からないとさっきから委員の意見が出ていますし、例えば、ここでビジネスをチャレンジしたいかと思う質問も、市民がすればもちろんいいんですけど、外からも福岡でチャレンジしたいなと思う環境かどうか、これは市民に聞いても分からないことなんですよ。なので、さっきから御意見ありましたように、聞く対象とか、聞くべき内容のカテゴリーのもう一回整理とか、そういったものをこちらでつくって、それを左側の項目とマッチングするというんでしょうか。なので、一つの質問は必ずしも目標の3の7じゃないかもしれませんがね。そういうふうを考えていくと、16という数の問題でもなくなるし、聞くべき内容を聞く人に尋ねるんだという構成の仕方もあるのかなと思いました。

○坂井部会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○委員 2度目の発言になって申し訳ありません。

皆様のお話を聞いていて、やはり誰に聞くのかは非常に重要だなと思ったのと、それから、もう一つは苦い話も聞かないといけないんじゃないかという御意見に非常にそうだなと思いました。

そういった意味では、福岡市から福岡都市圏に転出された方は何らか、もしかしたら御不満だったり、経済的な難しさがあって転出されたのかもしれないとか、それから、例えば、転入されてきて5年以内の方というのは、ほかの都市と比べてやっぱり福岡はこうだなというのを実感を持って回答いただける方なんじゃないかと思っていて、そういうところが非常に重要なんだろうというふうに思いました。

恐らく転出されている方も、転勤でやむを得なく転出された方と、いろんなほかの事情であったり、もしくは、これは厳しい見方ですけれども、福岡では十分チャレンジできないからほかに出ていくしかないというふうに考えた方もいらっしゃると思うんですね。そういう方々からの評価も、初期値はもしかしたら低く出るかもしれませんが、少しずつ高くしていくことで、より実のある総合計画になっていくのかなと思いましたので、その辺りでは、単純に市民に聞くというだけではなくて、通勤で来ていらっしゃる方もそうですし、事情があって福岡から離れる方、それから、福岡にいらした方も含めてアンケートの対象として、項目によっては考えていただくといいのかなと思いました。

以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。

ほかにいらっしゃいますでしょうか。これまで御発言なかった方、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、この辺りで二つ目の議題を示させていただければと思いますが、今までのところで、副部会長をしていただいております石丸さん、コメントをお願いします。

○石丸副部会長 今回の指標設定の方向性について、事務局のほうから大変丁寧にお示しをいただいたことに感謝を申し上げたいと思います。私も様々な自治体の審議会の委員をさせていただいており、KPIとか指標とか、様々な評価を毎年していますが、因果関係とか、どういうレベル感で指標を設定していくのかということが曖昧なことも多くあります。一方、事務事業の評価をしなければならないという制約から、個別の事業についての評価は結構しっかりとやるものの、それが計画にどう結びついていくのかというのが分かりにくいといったことがあるなということを実感しておりますので、本案の考え方としては大分整理されたんじゃないかなと考えております。

その中で、インパクトをはかる市民意識ということで、この指標設定自体、私自身は異論はなく、ぜひ進めていただければと思っておりますが、先ほど委員からも御指摘ありましたけれども、実施計画から基本計画にベクトルが向かっているというのがポイントだと思っております。要は、基本計画の指標設定以上に各個別の実施計画の指標設定が大事だと思っております。その指標にも当然、財務的であったり、あるいは市民の満足度であったり、あるいは業務プロセス、運営が進捗をしているかどうかという視点であったり、幾つかあるわけなんですよ。そういったものが恐らく個別の実施計画の中で出てくると思いますが、それらが最終的な基本計画の市民の意識にどうつながっているかということを検証するというのが大事だと思っております。この市民意識の部分でいくと、個別の施策が最終的な効果としてここに反映できているかどうかを考えていく視点が大事ではないかと思っております。その意味においては、16かどうかということはあまり関係がなくて、個別の施策が最終的に総体として目指すものが目標として何なのかということを改めてしっかりと考えた上で、この市民意識に何を聞くとするのか。個別に聞くに当たって、例えば、市民なのか、そうじゃない方々、域外とか観光客という方々なのかとか、幾つか視点ありましたけれども、その辺を踏まえていくということになると思います。つまり、何を達成したいかということ考えた上でのこの市民意識を聞くという前提でないと、実はここの設定が難しいのではないか、この因果関係をどう考えていくかということがあるんだろうというふうに思っています。

それから、やはり政策の進捗の話と、それが政策効果としてどういうふうにあったのかということは全く別の話なんですね。冒頭申し上げた話というのは、これが混在しているということがあって、例えば、イベントをやって、人がいっぱい来たから達成したということで、市民はオーケーだったみたいな感じになることが多いという意味です。これは全く別の話なので、そこをどういうふうに指標というか、評価をするという観点で見ていくのかということはもう少し議論がしっかりあるべきなのかなと思っております。

委員の皆様からあった意見もすごく参考になります。多面的な意見があって、従来の指標設定にこだわる必要はやはりないのかなということで、今回の基本計画を踏まえた施策において何を達成するのかということとしっかりと整理することと、これをどうやってお伝えしていく

のかという視点、そういったことを考えていく必要があるのではないかなと思いました。

あとは、アンケートはどうしてもイメージしにくかったり、項目が多いことで負担感があったりということがあるんですけど、この辺りもアンケートを受ける側からすると、どういうことをやりたいということが明確であれば、当然そこに答える人たちのイメージというのがすごくつきやすく、筆も進むと思うので、その辺りの工夫とか、あるいは、市民意識、何を聞くのかということの明確化をしっかりとしていただけたらなと思います。

また、最後のほうにありました、市民の方とか域外の方、その差分とかですね、あるいは転出した方の理由とか、そういったものが今後の施策の展開につながるように、うまく指標の設定などは考えていけばいいなと。基本的に指標はどうしても達成度だけを問われるものというイメージがあるんですけども、どちらかといったら改善につなげられるかだと思うんですね。そういった意味では、改善につなげるためにどういう設定をするかみたいな視点も大事になってくると思いますので、併せて申し上げたいなと思います。

以上でございます。

○坂井部会長 ありがとうございます。

大体これで意見、終わりに近づいておりますが、オンラインで御参加の委員からコメントをいただいております。事務局から読み上げをお願いしていいでしょうか。

○事務局（本村） 事務局でございます。

インターネットが不安定なので、テキストで失礼いたします。

追加コメントですが、アンケート方法やアンケートの取り方について、「分からない、無回答」が6割の回答とのことですので、「分からない」ではなく、「質問に対して該当しない」、なぜなら、1、子どもがいないから、2、未婚だからなど、今後のためにカウントできない回答をきちんと分析するようにしたほうがよいと思います。

また、「はい」、「いいえ」だけではなく、自由回答ができるようにしてはいかがでしょうか。

質のよい回答を得るためには、質問項目ごとに重要なターゲット回答者に関してはマッピングをして、できる限り回答してもらうことができるようにするとよいかなと思います。

以上でございます。

○坂井部会長 ありがとうございます。

それでは、最後になりますが、それぞれ御意見をいただけていない方が何人いらっしゃいますので、感想だけでも結構でございます。御意見をちょうだいできればと思います。

委員、お願いしていいでしょうか。

○委員 皆さんの言われている話を聞いているだけで、私もそうだなと思っておったんですが、やはりせっかく大事な御意見をいただける機会でもありますので、目標を24、16とこだわるのでは

なく、よりシンプルに精度が高くなるような目標設定にしたらどうかと思います。
以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。

委員、いかがでしょうか。

○委員 ありがとうございます。

私も皆さんの意見に同意見というか、同じだったので、特に発言はなかったですが、アンケートの内容がやっぱり1人で答えるには多岐多様過ぎてなかなか難しいのかなと思ったので、そもそも分けてしまって、対象ごとに——今は多分データから見れるものもあると思うので、本当にターゲティングして出しちゃってもいいんじゃないかなとは思いました。全員が回答してくれるとも限らないので、ある程度絞って吐き出すといったほうも必要なかなと思いました。

あと、冒頭に説明があったので、そうなのかなと、資料をもらったときからずっと気になっていた6割の方がやっぱり該当しないということだったので、そこはしっかり明確化するのは後々のデータとしてもいいのかなと感じた次第です。

ありがとうございます。

○坂井部会長 ありがとうございます。

続きまして、委員、いいでしょうか。

○委員 私から新たな論点の付け足しはありません。重要な二つの論点があると理解しました。一つは意識を聞く質問の解釈の難しさ。企業でもエンゲージメント調査というのを年1回程度行います。ワークライフバランスや上司と部下のコミュニケーションに関する満足度アンケート調査です。私も管理者としてフィードバックをもらいますが、なぜ満足度が高いのか、低いのかの要因がよくわからない。特定の個人のせいなのか、それとも組織風土の特色なのか。満足度の結果をのみをもらっても、では、どうしたらいいのか、アクションにつながらない可能性。意識調査のネックだと思います。委員の皆さんがおっしゃったように、どの施策が有効で、どの施策が有効じゃなかったのか、原因分析ができるというのが大事だと思いました。

もう一つは、誰に聞くかという論点。サンプルバイアス問題ですね。今選挙のシーズンですけど、ある特定の政党の支持者の人に、その政党の政策は満足ですかと聞いたら、満足度が高いという結果が調べなくても出る。多様なバックグラウンドの人から御意見を頂戴するというのが大事なのだと思います。

○坂井部会長 ありがとうございます。続きまして、委員、お願いいたします。

○委員 私も今回の資料はとても見やすく整理されているなと思って、拝見しておりました。

内容に関しては特段ないんですけど、個人的にはやっぱり仕事で転出したりと、自分で住む場所を選べる方はなかなか全体的な割合でいうと少ないかなと感じるので、例えば、仕方なく仕事の関係で出ていってしまうけれども、また帰ってきたいですかとか、選べるなら福岡を選びたいですみたいな意見も聞けたら個人的にはうれしいなと思いました。

以上です。ありがとうございます。

○坂井部会長 ありがとうございます。

それでは、オンラインで御参加の委員からお願いいたします。

○委員 私のほうからも、皆様からたくさんのコメントがありましたので、同様の意見なんですけれども、やはり質問の仕方、質問項目等、欲しい情報がきちっと得られるような形で質問しないといけないというところがちょっと難しいところだなと思いました。なので、24項目を16項目にするのがいいのかも含めてなんですけれども、いわゆる目標値ですね。目標とする、こういうことを聞きたくて、だから、こういう質問項目があるよというような関連性も踏まえたアンケートの質問の仕方というのがあってもいいのかなと思いました。

私からは以上です。

○坂井部会長 ありがとうございます。

最後です。委員、お願いいたします。

○委員 本日、たくさんの貴重な御意見が出されておりまして、私のほうからあんまり言うことはないんですけれども、ちょっと気になったのは、先ほどの委員も少し言われていましたけれども、例えば、オーバーツーリズムですよね。方向性として、なるべく多くの観光客が集まって活性化されるという。その一方で、オーバーツーリズムに対して問題意識を持っていらっしゃる方がいるというような、こういう方向性も、皆が同じ方向を向いているわけじゃなくて、ある人にとっては良いんだけど、ある人にとっては悪いとか、そういうトレードオフの関係もあると思うんですよね。そうしたところもアンケートの中で把握できるような形になれば、より良いものになるかなというふうに思いました。

それから、たくさんの質問項目がありますので、やっぱり負担をいかに減らすのかということも重要なことだと思っておりまして、高齢者だとか、いろいろな方がいらっしゃいますので、基本は文書だとか、そういったところで聞くというベースはつくらなくちゃいけないと思うんですけれども、ネット環境を生かして、なるべく負担の少ない聞き方も併用していくと、より良いものになるのかなと思った次第です。

以上です。

○坂井部会長 ありがとうございました。

それでは、これで今日の審議は終わりたいと思いますが、これを忘れていたという方はいらっしゃいますか。大丈夫ですか。

ありがとうございました。

それでは、市民意識の項目数等々の御意見をいただきました。これは生活の質部会、もう一つの部会でも御意見をいただきますので、それと合わせて来月の総会で案を示せるように事務局のほうでしっかり調整していただき、私たちのほうでそれを見てから出すというような段取りになります。よろしくお願いいたします。

事務局から全体を通して補足ありましたらお願いいたします。

○事務局（高橋） 本日も数多くの貴重な御意見、ありがとうございました。特に指標については、今日いただいた御意見を踏まえまして、具体的にどのような指標を設定していくかということをしつかり検討していかないといけないと思いますし、市民意識の部分については、アンケート調査をどういった形で取っていくかという調査の方法についても、引き続きしっかりと検討していきたいと思っております。

また、次回ですけれども、総会になりますので、3回の部会で御議論いただいた内容を踏まえまして、再度、素案全体の振り返りを引き続きよろしくお願いいたしますと思います。

以上です。

○坂井部会長 それでは、期間も来月までということで、短いですが、事務局のほう、エンジンを吹かして頑張ってくださいと思います。

それでは以上をもちまして、本日の議題につきましては終了させていただきます。進行を事務局にお返しいたします。

○事務局（高橋） 坂井部会長、石丸副部会長ありがとうございました。

以上をもちまして、福岡市総合計画審議会 都市の成長部会を閉会いたします。

次回は総会となります。開催日時は、御案内していましたが、8月20日火曜日の13時からを予定しています。

本日の資料につきましては、机の上にそのまま置いておいていただければ、事務局でファイルに綴じ込み、次回の総会で御用意いたします。資料を持ち帰られる場合、また、郵送を御希望される方は近くの職員にお声かけをください。

それでは、お忘れ物のないようお気をつけてお帰りください。本日は誠にありがとうございました。

閉 会